



# 小田原男声合唱团

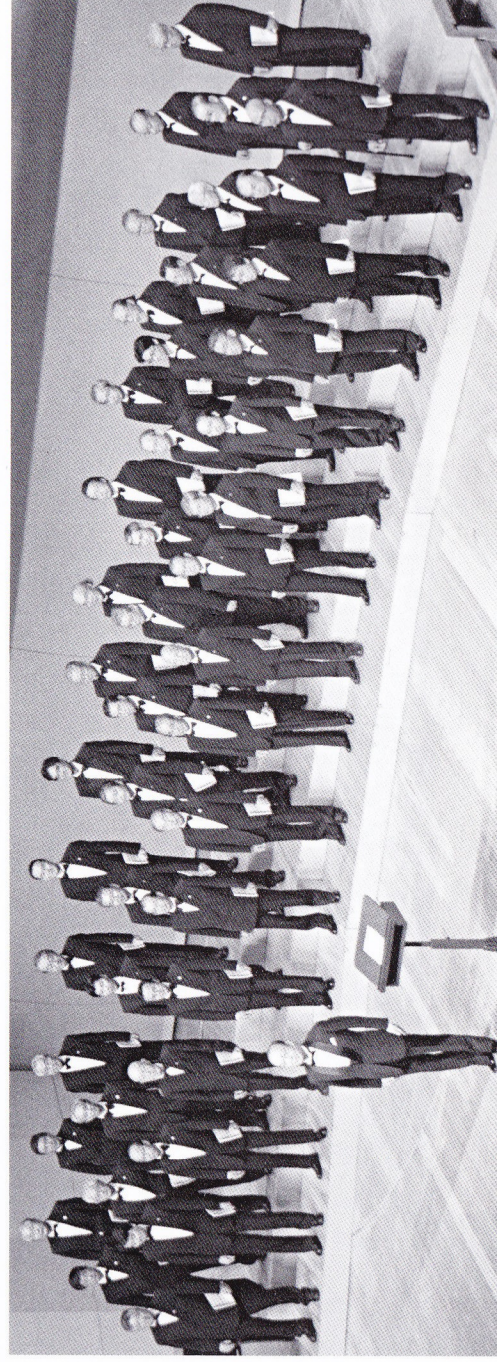
## 第35回記念定期演奏会



2006.11.18 (土) 午後4:00 開場 午後4:30 開演  
小田原市民会館大ホール

主催  
後援

小田原男声合唱团  
小田原市教育委員会  
日本男声合唱協会 JAMCA  
神奈川男声合唱協会 KAMCA  
湘南合唱連盟  
小田原地区合唱連盟  
小田原音楽連盟  
さがみ信用金庫地域文化芸術振興基金助成事業



## ごあいさつ

### 小田原男声合唱団 団長 一色 義信

本日はご多用中にもかかわらず、小田原男声合唱団の第35回記念定期演奏会にご来場頂き、団員一同心よりお礼申し上げます。

本年はオダダ創立35周年という節目の年に当たり、本年1月6日にオーストリアのウィーン・コンツェルトハウスにおいて、当初の海外公演を行いました。これにつきましましては、このプロラムの中で「小田原男声合唱団海外演奏初体験記」としてご報告させていただきます。合唱団にとりましては初めてのことばかりで、出発までのいろいろな苦労もあり、また旅行中のトラブルもありましたが、半ば珍道中の大変楽しい旅行となり、また海外演奏は我々にとつて大変貴重な体験となりました。

また10月8日には日本男声合唱協会（JAMCA）大分演奏会に参加して参りました。この演奏会において、オダダ創立35周年を記念して多田武彦先生に作曲をしていただきました。男声合唱組曲「吾寒小景」を初演し、大変好評を頂いてまいりました。本日この演奏会におきまして皆様にご披露させていただきます。第30回記念定期演奏会において委嘱初演をさせていただきました男声合唱組曲「西湘の風雅」に続き、大変素晴らしい曲を作曲していただきました多田武彦先生には、この紙面を借りまして厚くお礼を申し上げます。

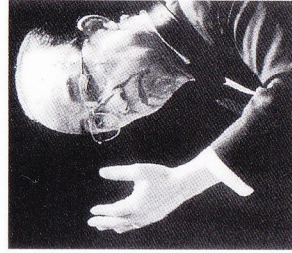
本年はその他、湘南合唱祭、城下町プレサミット前夜祭、サンシティ横浜演奏会、小田原市民合唱祭など多忙な1年となりましたが、音楽監督兼常任指揮者外山浩爾先生の献身的かつ情熱的な指導による練習の成果を皆様にお聴きいただきたく思っております。

第1ステージは、小田原在住の作曲家石井歡先生の作品、大分県院内町の石橋をテーマに作曲された男声合唱組曲「石橋の町」を病床におられる先生の1日も早いご回復を祈って演奏いたしました。

第2ステージは多くの合唱曲を遺したシューベルトの作品から3曲を演奏いたします。第3ステージは皆様もよくご存じの宮崎駿の映画「となりのトトロ」「千と千尋の神隠し」「もののけ姫」「天空の城ラピュタ」の映画音楽を信長貴富先生編曲により、男声合唱のための「宮崎駿アニメ映画音楽集」として、団内指揮者牛丸紘一の指揮で演奏いたします。特に信長貴富先生にはこの記念演奏会に花を添えるべく、オダダのために従来集に加えた新たに3曲の編曲、音楽集の構成をしていただき、本月初演させていただきますこと厚く御礼申し上げます。

そして第4ステージは先に述べました35周年記念委嘱作品、多田武彦先生作曲の男声合唱組曲「吾寒小景」であります。小田原ゆかりの詩人北原白秋の感傷的な中にも暖かみを感じる詩の世界を、多田武彦先生ならではの音楽で表現した作品をお楽しみください。

間もなく開演のベルが鳴ります。今宵皆様に私達の合唱で素晴らしいひとときをお過ごしただけです。心を含めて演奏いたします。これからもオダダの活動に暖かいご声援をお願いいたします。



外山 浩爾 音楽監督 / 常任指揮者

日本楽壇の功労者・外山国彦を父に、指揮者・外山雄三を兄にもつ音楽一門の出身。幼少より本格的な音楽教育を受け、東京芸術大学に入学、柴田睦陸、ウー・ペー・ペニヒ、リア・フオン・ヘッサー諸氏に師事し、卒業後直ちに同大学及び附属高校で教鞭をとる。その傍ら藤原歌劇団に参画し、「森の歌」「ドイレクイエム」等のソロ活動、「カルメン」「蝶々夫人」等、数多くのオペラ活動、「歌のメロリーゴラード」「セブシヨーン」等長期テレビ活動のように広範囲に活動。他方、合唱活動にも積極的に参画し、世界合唱連合設立代表委員、東京都合唱連盟理事長、全日本合唱連盟副理事長等を歴任。現代作曲家の数多くの新作初演等を行い、合唱界発展のために尽力されている。

教育活動では、東京芸術大学附属高校副校長をはじめ東京大学、鳴門教育大学、兵庫教育大学連合大学院教授、全日本音楽教育研究会副会長等を歴任。後進の指導に努めた功によって92年には、文部大臣より教育功労表彰を受け、96年に小田原男声合唱団の音楽監督・常任指揮者に就任、現在に至る。大学の合唱団の指導と、現在、聖徳大学大学院教授、全日本合唱連盟相談役。



牛丸 紘一 指揮者

高校より合唱指揮をはじめ、大学時代は母校『金沢大学合唱団』の指揮者を務める。大学卒業後は製菓会社に勤務の傍ら、京都で最も伝統のある『京都混声合唱団』の指揮者をはじめ、職場、女声合唱団の指揮者として活躍した。この間、京都市交響楽団との協演時にバツハママタイ受難曲、ハイドン四季、ベートーベン第九、モーツァルト、フォーレ、ドボルザーク、ヴェルデイのレクイエム等の合唱指揮を努めた。転勤により小田原へ移住し、小田原男声合唱団に入団、昨年より団内指揮者を務める。星旭、中村外治、青山雅雄、蔵田裕行氏に指導を受ける。日本新薬(株)取締役生産本部長を歴任。



岡田三千枝 アルトソロ

玉川大学芸術学科を首席で卒業後、東京芸術大学音楽部声楽科卒業。

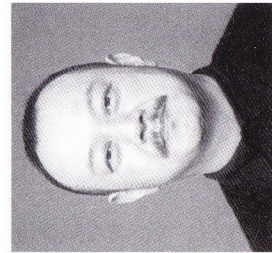
荒道子、畑中更予、金森静子、故渡邊高之助、F. ドンナー、W. モーア、H. クレッチマールノ各氏に師事。

東京(5回)、小田原(9回)の他、遠くはウィーンまでを含め、35回のリサイタルを行うと共に、日本モーツァル協会委託の「魔笛」を始めとする数多くのオペラ、及びスロヴァキアやポーランド、神奈川芸術祭での「第九」、「戴冠式ミサ」を始めとする多数の宗教曲のソリストとして、また、日中友好使節としての北京、上海演奏会、ウィーン国立音楽大学ホール演奏会、同日本人学校コンサート、各種ジョイントコンサート、ヴォカールコンサート等、国内外での出演は500回を越え、表彰を含め、好評を得ている。

現在 二期会 日本演奏連盟会員、ぐるーぷなべ会員

音楽グループ「グルッパ・ヴォカール」主宰

静岡県浜松市天竜ふるさと大使



呉 信樹 ピアノ

桐朋学園大学音楽学部演奏学科ピアノ専攻卒。同オーケストラ研究科修了。ピアニを兼松雅子、石黒浩ル市ケル谷で「ソロとアサンブルの夕べ」に出演。氏以降ジョインブルを中心にソロ・指導等幅広い演奏活動を行っている。89年より『しなの合唱団』のピアノリストを務める。これまでに定期演奏会(第1回～第13回)、訪中コンサート、都民合唱コンクール、その他数多くの協演を重ねている。

先生には、昨年に引き続き日々の練習よりご指導をいただいている。

# § プログラム §

I 男声合唱組曲 石橋の町 佐々木 均太郎 作詩 石 井 敏 作曲 指 揮 外山 呉 浩爾 信樹

飛沫の精  
龍女ときざはし  
石橋の故里  
石楠花を讀う

II SCHUBERT 曲集 FRANT SCHUBERT 作曲

Der Gondelfahrer ゴンドラ漕ぎ  
Ständchen セレナーデ  
Gott in der Natur 自然の中の神

休

憩

III 男声合唱のための 宮崎駿了ニメ映画音楽集 指 揮 牛丸 呉 紘一 信樹

信長 貴富 編曲

さんぽ  
いつも何度でも  
もののけ姫  
君をのせて  
となりのトトロ  
さんぽ ～ finale ～

中川李枝子 作詞 久石 譲  
覚 和歌子 作詞 木村 弓  
宮崎 駿 作詞 久石 譲  
宮崎 駿 作詞 久石 譲  
宮崎 駿 作詞 久石 譲  
中川李枝子 作詞 久石 譲

男声版初演  
男声版初演

男声版初演

IV 2006年委嘱作品

男声合唱組曲 沍寒小景

北原 白秋 作詩  
多田 武彦 作曲

指 揮 外山 呉 浩爾

山峡の良夜  
鶴鳴  
物臭太郎  
雪中思慕  
雪後の曇り  
北山時雨



## II SCHUBERT 曲集

FRANT SCHUBERT 作曲

指揮 外山 浩爾  
アルトソロ 岡田三千枝  
ピアノ 呉 信樹

Der Gondelfahrer ゴンドラ漕ぎ  
Ständchen セレナーデ  
Gott in der Natur 自然の中の神

### シューベルト合唱曲

歌曲の王として親しまれているフランツ・ペーター・シューベルトは、本年度生誕250年を迎えたモーツァルトの41年後、1797年にオーストラリアのウィーンで生まれた。

小学校の校長を勤める父は音楽愛好家で自らもバイオリンを弾き、一家は重唱や合奏を楽しむような家庭であった。

幼少より父、兄からバイオリン・ピアノの手ほどきを受けたシューベルトは忽ち上達し、新しい先生のもとでも、直ぐに教えることがないと言われるほどの天才ぶりを発揮した。11歳の時には、難関の帝王立寄宿神学校（コンビクト）の礼拝堂合唱児童に採用された。コンビクトの聖歌隊では変声期までボーイソプラノで活躍する一方、本格的な音楽教育を受けた。この時代に聖歌隊で歌に接した経験がシューベルトの多くの優れた声楽の作品創造に寄与したことは想像に難くない。

作品としては、13歳（1810年）の曲が現存し、以後32歳の若さで世を去るまでに約1500曲余りの作品を残した。

代表的な歌曲である「糸を紡ぐグレートヒェン」や「魔王」は17～18歳の作品であり、その天才ぶりが伺えるが、一方、多岐のジャンルにわたる作品の多さにも驚かされる。

あの「未完成交響曲」をはじめとする交響曲、ピアノ曲、室内楽の分野では、特に多くの優れた作品を残している。

その中には、あの「美しき水車屋の乙女」や「冬の旅」等の歌曲が、577曲。ミサ曲等の宗教曲が、45曲。世俗の合唱（重唱）曲は男声57曲。混声30曲。女声6曲のほか三重唱曲等61曲がある。男声合唱曲は初めからコンサートを意図して作曲されたものと言われている（因みにシューベルトはセカンドデナーを歌っていた）。その作品は歌曲と同様に詩への深い共感を独創的な美しいメロディ一、多彩なハーモニー、そして、斬新な声部の展開で表現されており、その普遍性と親しみ易さで、今日まで世界中の合唱団で愛され、歌い継がれている。

シューベルトによって初めて男声合唱は高い音楽性を付与されて音楽芸術の一分野としての地位を獲得したといても過言ではなく、その作品は男声合唱団にとってバイブル的な意義を有すると言える。

本演奏会では、代表的な作品3曲を取り上げて演奏する。

### ゴンドラ漕ぎ

ヨハン、マイアホップアー詩

ヨーロッパの北に住む人々にとって、陽光あふれる南欧、とくにイタリアの風物は限りなく憧れを誘うものであった。アドリア海の真珠と呼ばれたヴェネツィアのそれもまた、ローマやナポリに劣らず、芸術家の琴線を揺るものであり、大運河を行き来するゴンドラの舟唄は様々な作品に登場する。ドイチェ番号809のこの曲は1824年3月頃の作曲と言われている。

船べりに寄せる波を思わせる軽やかなピアノに乗って美しい歌が流れていく。ヴェニス舟遊びを歌ったものであることは言うまでもない。波のリズムと中間部のサン・マルコ寺院の夜半の鐘の音を模したピアノの響きは効果的である。

この曲によってシューベルトはピアノと合唱のコンチェルト風の合唱曲に新しい境地を開いたと言われている。

### セレナーデ 小夜曲フランツ、グレルパルツェル詩

シューベルトは女友だちの一人から、ある女性の誕生祝いに使うためにアルトと女声合唱のためのセレナーデとして作曲を依頼されたが、勘違いして男声をアルト独唱のバスクコーラスにしてみ、依頼主から、自分は声楽をしている若い淑女たちを使うことはできないが、テノールやバスの歌手は使えないと注意されはじめたという逸話が残っている。

恋する若い男の理想像として、低いアルトの声部はテノールより一層デリケートであり、男声の響きの上に、かすかに波立つ水の上の空に光る星のようになおく漂うのである。アルトと男声合唱の織り成す優雅で甘いセレナーデで「お慕いする私の声が聞こえる間は眠らないでください…」と歌う。

### 自然の中の神

エヴァルト、クリスチャン、フォン、クライスト詩

原曲は女声4重唱であるが、今回はデキストをそのまま男声4部合唱で挑戦する。

自然の中に現れる神の御業に対する畏敬の念、感謝、そして、讚美を歌っている。

## Ⅲ 男声合唱のための 宮崎駿アニメ映画音楽集

指揮 牛丸 統一  
ピアノ 呉 信樹

信長 貴富 編曲

さんぽ	中川李枝子	久石 譲	作曲	男声版初演
いつも何度でも	覚 和歌子	木村 弓	作曲	男声版初演
もののけ姫	宮崎 駿	久石 譲	作曲	
君をのせて	宮崎 駿	久石 譲	作曲	
となりのトトロ	宮崎 駿	久石 譲	作曲	
さんぽ ～ finale ～	中川李枝子	久石 譲	作曲	男声版初演

2005年、カワイ出版

『千と千尋の神隠し』が2002年ベルリン国際映画祭グランプリ（金熊賞）、2003年アカデミー賞（長編アニメーション部門）など、主要アニメ賞を数多く受賞していることから分かつとおり、宮崎監督のアニメ映画は今やその価値が世界的に認められています。その主題歌や挿入歌は上映を終えても長く愛され続けています。今も人々の心を捉えてやまないスタジオジブリの映画作品から、特によく知られて人気の高いものが、信長貴富氏によって混声及び男声合唱にアレンジされています。

1曲目の「さんぽ」は『となりのトトロ』（1988年公開）の主題歌。子どもたちが元気に歩く様子が目に浮かぶマーチ調の歌。

2曲目『千と千尋の神隠し』（2001年公開）の主題歌「いつも何度でも」では素朴な旋律が静かに歌われます。

3曲目は1997年公開の『もののけ姫』主題歌。カウンターテナー米原美一氏の神秘的な歌唱が印象的ですが、その神秘的なイメージが合唱に投影されています。ベース系のメロデューにテノールのハミングが雄大な森やそこに棲む生き物たちや「もののけ姫」サンの強い決意を描いています。

4曲目「君をのせて」は、『天空の城ラピュタ』（1986年公開）の挿入歌。暗黒の宇宙に不安げに浮かぶ地球がたくさんの生命を抱えながら力強く回っている…… そんな輝く星に馳せた思いを醸し出し、移り変わる様々な地球の表情を描きます。

5曲目は『となりのトトロ』のエンディング主題歌。トトロ・トトロ…… と曇み掛ける合唱の中には、大・中・小トトロがひよこひよこ駆けていきます。

そして、6曲目は、1曲目の「さんぽ」がこの音楽集のフィナーレとして再登場します。

混声版は2003年に出版され、すたでに、たくさんの合唱団で演奏されています。

「もののけ姫」「君をのせて」「となりのトトロ」の男声版は、2004年“お江戸コラリアーズ”による初演後、多くの男声合唱団によって演奏されました。混声版には、第1集と第2集があります。男声版に編曲されているのはそのうち第1集のみでした。（2005年現在）

この度、お忙しい信長貴富先生に懇願し、小田原男声合唱団より、新たに「さんぽ」「いつも何度でも」の編曲を依頼することができましたのは団員一同の喜びとするところです。

新たに男声版3曲の編曲を加え、改めて構成していただきました。

若々しく歌い上げていきたいと思えます。

（ T 2 福井 隆 ）

IV 2006年委嘱作品  
男声合唱組曲 互寒小景

北原 白秋 作詩  
多田 武彦 作曲

指揮 外山 浩爾

山峡の良夜  
鶴鴿 物臭太郎  
雪中思慕  
雪後の曇り  
北山時雨

(やまかいのりょうや)  
(せきれい)  
(ものぐさたろう)  
(せつちゆうしほ)  
(せつごのくもり)  
(きたやましぐれ)

2006年、メロス楽譜

I 山峡の良夜 紫の  
なるといふぞ、たつた竹、  
雪のつもも、ちた水の面。  
林泉の石、閉かちつづけたこの静けさを  
敗荷を朝からむ、乱してくれるな。  
少よし、でも、む中、に、あるが、  
月は昔から、半面の深さ、  
あ、ひわれ、た、紫の濃さ、  
光を、あ、その、縁の、ま、た、た、く、  
あ、年、昔の、ま、た、た、き、が、  
鶴よ、せ、林泉の、雪に、黙ん、  
せ、て、は、仙家の、秘葉を、練、つ、て、て、て、くれ。  
詩集『水墨集』より

II 鶴鴿  
山川のたぎつ瀬の、  
瀨の、瀨の岩に  
ゐる、鳥の、  
尾を振る鳥の、  
鶴鴿の、  
ふと、その岩を飛び去んぬ。

III 物臭太郎  
物臭太郎が日向ぼこ  
ぬうらりくうらり温くかろな。  
物臭太郎が父さまも  
どこかかたぼんやり温くかろな。  
物臭太郎がお母さま  
日永に去られて温くかろな。  
物臭太郎がお祖父さま  
お墓の下でも温くかろな。  
物臭太郎がお祖母さま  
なむあみだぶつで温くかろな。  
物臭太郎が日向ぼこ  
物臭つぐくめで温くかろな。  
物臭太郎がひとりごと  
明日もやっぱり温くかろな。  
詩集『水墨集』より

IV 雪中思慕  
雪は霏々として、蒲の穂につもり、  
灰いたろのへら、今も姿をひそめた。  
わいたさはな、驚笠を着た童、  
この雪には小の暮れに何処へ行つたものか、  
片手には日だ、亀の子の温かみがあるのに、  
遠い母里と金のランブも見つからぬ。  
ああ、霏々と金してて雪の郷愁。  
詩集『水墨集』より

V 雪後の曇り  
ひさは本でも楽しい暇だ、  
今日かから親しいよ。曇りに  
なにかしは餅でも焼きたくなつた。  
わたしは餅でも焼きたくなつた。

あの寒枇杷の向うの  
蜜柑山の斑ら雪、ろだが、  
聖ヶ嶽はまつした低空である。  
閑かな

見てゐると、つい、近くの孟宗の上を  
弧をかいて落つる小鳥もある。  
硝子戸越しゆゑつめたいけれど、  
びいちくびいちく鳴く声もする。

炭火に片手をかざしながら、  
私は独り楽しんでゐる。  
斑らの雪も光はしないが、  
何かしねすみに匂つてゐる。

詩集『水墨集』より

VI 北山時雨  
1 樅の梢と檜の森は  
いつも時雨にすくすくと。

「北山時雨がお好きなら  
釣棹かたげて耐つりに、  
その耐買ひましましよ、いくらす。  
一貫五百にまけておこ  
それでも高いと突つばなす。」

今朝の、サイサイ、寒さは身に染みる。

2 樺林の鳥の巣見れば、  
いつも薄陽にさえええと。

「北山時雨がお好きなら  
釣棹かたげて耐つりに、  
その耐買ひましましよ、いくらす。  
一貫五百にまけておこ  
それでも高いと突つばなす。」

早やも、サイサイ、日暮れの鐘のこゑ。  
詩集『日本の笛』より

詩集『水墨集』より

男声合唱組曲「互寒小景」誕生記 作曲家 多田武彦

2001年に、小田原男声合唱団から、創立30周年記念演奏会のための、新曲の委嘱があった。「小田原にゆかりのある詩人の詩に作曲してほしい」との要望に従い、大木惇夫先生の詩による組曲「西湘の風雅」を作曲した。外山浩爾先生指揮、小田原男声合唱団の諸兄による小田原での初演や、金沢での、JAMCA創立30周年記念第15回演奏会での名演は、今でも語りぐさとなっている。

そんなご縁から、2006年の創立35周年に際しても、新曲の委嘱があった。小田原にゆかりの詩人となれば、何と言っても北原白秋先生。初演の指揮は、外山浩爾先生。外山先生の御尊父・国彦先生は「北原白秋作詩・山田耕筰作曲」の多くの歌曲を、日本中に広められた方。そうしたことから、北原白秋先生の詩に題材を求めた。

昨年晩秋以降の厳寒は、75歳の私には大層堪えたが、逆に白秋先生の冬の詩を選ぶことが出来た。「目の前の山峡の良夜と、天空の宵の明星の輝き」「寒日の、鶴鳩の飛翔」「日向ぼっこへの郷愁」「幼少時の冬の寂寥への追憶」「小田原近郊、聖ヶ嶽の冬景色と、孤独を楽しむ詩人の閑寂」「時雨と、木々の遠望と、暮鍾の中での屈託のない会話」などなど、何時にも変わらぬ白秋先生の詩情と芳潤な語彙と音楽性に感動しなげら、私自身も身も身の回りの「互寒小景」に浸りつつ、水墨画のような65作目の男声合唱組曲を、書き上げるものが出来た。

今年10月、JAMCA第17回演奏会が、白秋先生ゆかりの九州の地で開催されるのを機に、小田原での初演に魁けて大分での披露となった。白秋先生の詩情と香りが漂う名演は、多くの聴衆に深い感銘を与えた。今宵、北原白秋先生の魂が、聖ヶ嶽に降りて来て、男声合唱組曲「互寒小景」を、しみじみとお聴きになっておられるかもしれない。

多田武彦

### 北原白秋と小田原時代

司会 (レポーター) 今回の定期演奏会で、多田武彦先生委嘱曲『互寒小景』が歌われていますが、作詩の北原白秋先生の小田原時代について少し考えてみたいですね。実は、昨年の定期演奏会で演奏された『白き花鳥図』も同じ北原白秋の詩に多田先生が作曲された曲でした。ところで、白秋が小田原に8年間住んでいたことを知っていましたか。

団員1 小田原には、「童謡フェスティバル in 白秋」「白秋童謡館」等があり、住んでいたことは知っています。それが、8年間も住んでいたことは知りませんでした。それに、33才から41才の壮年前期にあたることもね。

司会 今日のステージーの『互寒小景』には、白秋の『水墨集』『日本の笛』の中の詩が使われていますが、小田原で書かれた詩集であることを知っていましたが、恥ずかしいですが知りませんでした。白秋については、童謡との結びつきが強く、歌集を出していることは知っていましたが、小田原時代に小説を書いたり、雑誌(『芸術自由教育』『詩と音楽』等)を出版しては知りませんでした。

司会 その詩人の生涯を知ろうとすれば、伝記を読むのがいいのですが、余程白秋に関心がなくてはできません。白秋にとって小田原時代が詩人として転機になった土地であったことは確かだと思えます。

その1つが『水墨集』が出版されたということですが、『水墨集』は、序文とした長文の詩論「芸術の円光」を掲げ、14の章立てに分け詳しい詩を取り上げ、白秋自身の「水墨集解説」が載っている8連に仕上げられたのが『水墨集』なのです。『互寒小景』では、6曲のうち5曲が『水墨集』から取られています。これらの詩を読んで気付かれたことはありませんか。詩を口ずさんで気付くことですが、美しい口語自由詩の形態をとっていること、です。平易な言葉で情景を鮮明に描けるということは、詩人の感性の力ではないでしょうか。すでに『水墨集』が書かれて約85年の歳月が過ぎようとしていますが、信じられないくらい新鮮を受けますね。

団員3 『互寒小景』では雪の詩が多いので、北国を想像してしまっただけで、小田原の地名が出てきているので、やはり、これは小田原の風景なのだと思います。これはいくらでも、小田原地方には珍しく、

司会 『水墨集』は、大正12年6月18日に刊行されています。実は、その年の正月、小田原地方には珍しく、

い大雪が何回も降り、そのためにあれほど忙しい白秋も外出することができずに、書斎から町の雪景色を見ながら詩的感興を起こし、5日間で59編もの詩を作ったんです。それが『水墨集』の中心になっている詩なんですね。『互寒小景』の中の「山峡の良夜」「雪中思慕」「雪後の曇り」は、まさに、その時の雪の風景を表現したもののなものです。『互寒小景』の詩の表現の中には、流石に白秋だと感じるフレーズがありますね。

司会 『城ヶ島の雨』では、「利休ねずみ」という言葉を使っているけれど、色彩としては「利休鼠」色です。『互寒小景』の中の「しねずみ」も「秦鼠」色が正しい色。「何かしねずみに匂ってある」と、雪の風景から受ける印象を色彩的に表現するのも白秋的です。白秋への親近感がさらに伝わってくる気がしています。けれど、それはどこから来るものなのでしょう。白秋の小田原時代が詩人にとって第2の転機となつたのは、家庭生活の変化が挙げられると思います。佐藤キク(通称菊子)と結婚し、長男隆太郎、長女の誕生がくれたこと、つまり、家庭生活が安らぎを与えてくれたこと、つまり、「雪後の曇り」を声に出して読んでみれば分かることだと思えます。家庭生活の充足感が言葉に溢れている。この時、長男隆太郎は1才前で、家中をヨチヨチ歩きをしていることを想像しても楽しくなる。白秋は、隆太郎が生まれて1ヶ月も経たないうちに、西洋音楽のレコードを聴かせるとそれに反応したとか、自分の詩に節をつけて聴かせると、詩の内容の善し悪しを聞き分けているのではないかと、その「芸術の円光」に書いています。白秋は、相当な教育パパだったのかもしれないですね。

司会 委嘱曲『互寒小景』が歌え、白秋がより身近に感じられるようになってきた感じがする。白秋は、小田原を去って東京の谷中に住んだ時、長男が「東京には星がない」と言うので「俺には書斎がない」と言ったといわれている。小田原の伝蔵寺隣接地の赤瓦の3階建て西洋館の2階の書斎は、『水墨集』が生まれた想い出であり、白秋の心には、小田原の風景が生涯刻まれたものではないでしょうか。小田原に住む私たちも、小田原を心から愛した白秋を知っているだけでなく、誇りとしていいのではないかと、皆さんも思いませんか。

司会 小田原で多田先生の白秋が歌えるなんて、合唱員に尽きるね。年が若返るもどかな。皆さん、舞台の上で一緒に多田節を口ずさんでみませんか、白秋の……。

団員6 司会 多田先生が歌えるなんて、合唱員に尽きるね。年が若返るもどかな。皆さん、舞台の上で一緒に多田節を口ずさんでみませんか、白秋の……。

団員7 司会 多田先生が歌えるなんて、合唱員に尽きるね。年が若返るもどかな。皆さん、舞台の上で一緒に多田節を口ずさんでみませんか、白秋の……。

## 小田原男声合唱団海外演奏体験記

### ウィーンコンツェルトハウス 演奏会

#### 小田原男声合唱団 団長

##### 一色 義信

正月気分の残る平成18年1月4日午前6時、小田原男声合唱団初の海外演奏旅行は、夜明け前の小田原駅西口集合から始まった。心配していた遅刻者もなくチャーターしたバスは予定どおり6時15分真冬の闇の中を成田空港に向けて出発した。

小田原男声合唱団一行を乗せ小田原駅を出発したバスは、新年早々の早朝のせいもあり、予想以上に順調に高速道路を走り抜け成田空港へ到着した。成田空港は何度来ても、ここから始まる旅に想いを馳せ、私達をわくわくさせる場所である。第2ターミナルDカウンターで外山先生ご夫妻はじめ空港集合組と合流し、午前11時40分発オーストリア航空52便に搭乗、ここで最初のアクシデントに見舞われるのである。

出発予定時刻、我々を乗せた飛行機はゆっくりと滑走路へ向け滑り出し、いよいよ体勢も整いいざ出発と思われたそのとき、機体はUターンし元の場所へと戻っていった。そして機内アナウンス。コントロールシステムのトラブルにより出発の目処たたず、とのことである。そして機内で待つこと約2時間、本日の出発はもしかしてだめかと諦めかけた頃、何とかトラブルも解消し今度こそ本当にランドオフとなった。約11時間のフライトの後、雪の積もるウィーンに到着したときにはすっかり夜になっていった。その日は時差ぼけ防止と称し、ホテルのレストランで遅くまで皆でビールを飲んだ。

翌日5日はウィーン市内観光と夜は国立オペラ座でのバレエ公演またはフォルクスオパーでのオペレッタ「メリーウィドウ」の鑑賞であった。忘れることのできない思い出は、シェーンブルン宮殿を見学の際、装飾と天井画の美しい大広間でのウエルナー作曲「野ばら」の演奏である。見許可を得ていたわけではないが、現地のガイドさん（日本人の女性）の

機転と勤めでゲリラ的に演奏したわけだが、宮殿の雰囲気と素晴らしい響きに助けられ、周囲にいた観光客からも拍手を頂いた。しかし最も感激してくれたのはガイドさんのようだった。

6日はいよいよコンツェルトハウスでの演奏会本番の日である。当日は朝9時の各団責任者のミーティングから始まる長い1日となった。リハーサル以外の時間が長く、お陰でコンツェルトハウスの中を隈無く探検することができた。また、我々の楽屋としてグロツサルザール（大ホール）を使わせてもらったのも贅沢なはずである。ウィーン交響楽団の楽器が置きっぱなしの舞台の上で思い思いにソリスト気分の記念写真を撮った。

午後6時30分、開場とともにコンツェルトハウス内の収容人員約700人のモーツァルトザールは満席となった。午後7時、大正琴の演奏でのオーブニング後、総監督外山浩爾先生の舞台挨拶が行われた。第1部の女声合唱2ステージに続き、いよいよ第2部小田原男声合唱団の登場である。最初のステージ、ウィーン市民には馴染みの薄い日本民謡については、予め当方より送付しドイツ語に翻訳した日本民謡についての紹介、各曲の歌われている内容を演奏前にアナウンスしてもらった。「そうらん節」「大漁祝い」「最上川舟歌」「斉太郎節」とそれぞれの曲演奏ごとに割れんばかりの拍手を頂いた。何か拍手の質も日本とは違っていた。とても熱心な拍手に感激した。つかみはOKである。

第2部女声合唱の演奏に続いて3ステージ目、再び小田原男声合唱団の登場である。演奏曲目は男声合唱組曲「月光とピエロ」、はたしてウィーン市民に理解してもらえないか不安はあった。勿論こちらも曲目解説を予め送付しドイツ語でアナウンスしてもらった。ドイツ語に翻訳するのも相当苦労したことだろう。しかし案ずるより産むが易し。やはり音楽は国境を越えた言葉であった。ウィーンの聴衆の熱狂的な拍手で演奏を終えることができた。

第3部はウィーンの子供達（とは

言ってもやたら発育のいい子供達も)のかわいい歌声。聴衆には子供達の身内が多かったのか、このステージが聴衆の拍手が大きかったようである。そして日本人出演者との「さくらさくら」の斉唱。グラントドフイナールは日本人出演者全員によるモーツァルト作曲「Ave verum corpus」で感動的に幕を閉じた。

この演奏会は、ホールの大きさが適当だったこともあり、聴衆を非常に身近に感じることができ、聴衆と一体感が感じられる、歌い手側にとってもとても感動的な演奏会であった。小田原男声合唱団のステージで、舞台係が舞台の脇に置いてあった指揮台を舞台に出すのを忘れ、それに気付いた聴衆のひとりが客席から立ち上がり指揮台を移動してくれた。ウィーン市民の暖かさが感じられるこのようなハプニングもあった。

そして演奏会の後は勿論打ち上げである。ウィーンコンツェルトハウス内のレストランを貸し切りにして、出演者全員でのレセプションパーティーとなった。私は外山浩爾先生、そしてこのコンサートの実任者であるコンツェルトハウススマネージャーのエバ・アンプロス女史らスタッフと同じテーブルに着いた。私はドイツ語が話せないため、下手くそな英語でアンプロス女史といろいろな会話を試みた。その会話の中で小田原男声合唱団に”really high quality”とお褒めの言葉を頂いたのはとても嬉しかった。パーティーは、コンツェルトハウスより各出演団体ごとに出演者全員に対する感謝状の贈呈で幕を閉じた。

翌日7日早朝にはウィーンのホテルを出発し、「サウンドオブミュージック」の舞台となった、美しい湖と山々のザルツカンマングラート、そしてモーツァルト生誕250年で沸く古都ザルツブルクを観光した。その晩は希望者はミラベル宮殿でのコンサートを鑑賞し、ザルツブルク市内のホテルに宿泊し、いよいよ翌日は帰国の途につくこととなる。

8日はまたしても早朝ホテルを出発し、バスでザルツブルク空港に向かった。ザルツブルクからは空路国内線でウィーンへ向かうこととなつて

いた。ここで再びトラブルに見舞われることとなった。空港カウンター係から我々の団体はダブルブックイングのため4人は飛行機に乗ることはできない、と言うのである。空港まで同行してくれた現地ガイドの日本人女性も、かなり強硬に交渉してくれた。しかしそれに対する回答は、そちらが4人を指定しないならこちらから4人を指名する、とのことであった。ダブルブックイングは航空会社の責任であり、我々には何の責もないのである。しかしそれを平気で言っているのはやはり国民性の違いであろうか。結局団員及びそのご家族にご苦労をお掛けしたが、航空会社との交渉の結果、賠償金は1人あたり75ユーロで決着し、航空会社の手配したタクシーに乗り込んでもらった。

その1時間後搭乗した飛行機は、初めて乗る小さなプロペラ旅客機であった。多少の不安はあったものの無事ランドオフ、しばらくして先のタクシーをそろそろ追い抜かず頃であらうかと、良く晴れた空からザルツブルクからウィーンへ向かうフリーウェイを見下ろしていた。ウィーン空港で到着後、無事にタクシー組を出迎えることができた。

午後1時40分オーストリア航空52便は一路成田空港に向け帰国の途についた。私はウィーン空港での4時間の待ち時間の間に外山先生達と飲んだビール、そして早速出された機内食とワイン、そして旅の疲れですぐに熟睡。帰りはさしたる時差ぼけもなく、あつという間に成田空港へ着いた感じであった。そして成田空港で解散式を行い、チャーターしてあったバスで小田原へ向け出発。そこで最後のトラブル発生である。

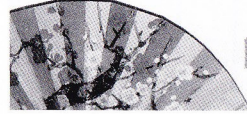
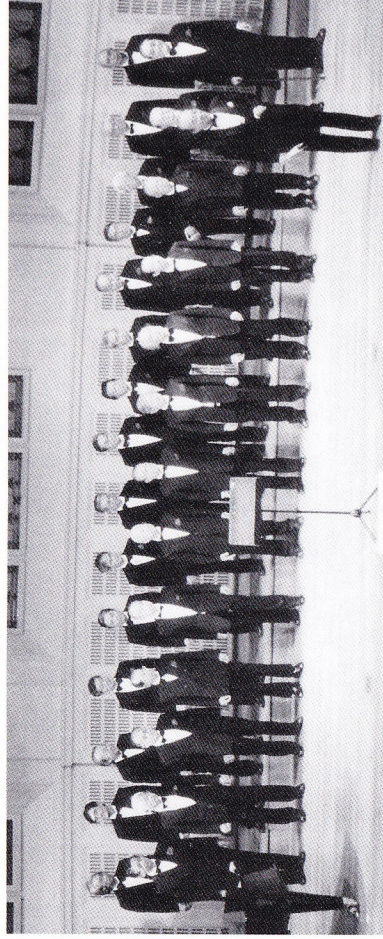
団員のひとり機内に財布を忘れたと言いついたのである。しかしながらも多少のことでは動じることなく、バス中よりすぐに成田空港にいる旅行社の担当者に電話し、すぐに財布を発見、数日後には本人の手元に財布は戻ってきた。

バスは1月9日午後2時頃、出発したときと同じ場所の小田原駅西口に到着、無事に小田原男声合唱団初めでの海外演奏旅行のすべての行程

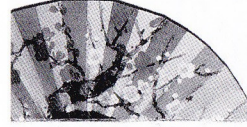
を終えることができた。

今回の演奏旅行で、我々は海外演奏でしか味わうことのできない緊張感と感動を団員皆で共有することに、より、より一層団員の気持ちをひと

つまとめることができたと思う。そしてそこで得た自信がオダダンのその後の活動の大きな糧となることであろう。



# Japan grüßt Wien



Wiener Konzerthaus  
Mozart Saal

6. Jänner 2006  
19:00 Uhr

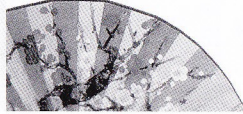
# Japan grüßt Wien

eine musikalische Weltreise mit  
japanischen Chören



Programm

Preis des Programmheftes € 0,85



TOYAMA KOUJI

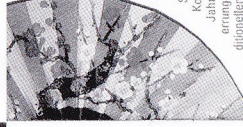
Koordinator  
und musikalischer Leiter des Konzertes

Es ist eine große Freude mit dem heutigen Konzert der japanischen Amateurgruppen im Wiener Konzerthaus aufzutreten.

Für uns bedeuten diese Konzerte eine wichtige Erfahrung um in einer anderen Kultur zu musizieren. Die Gruppen werden die klassische Musik, Wien, mit Haut und Haaren erfahren und wertige Impulse nach Japan mitzunehmen.

Toyama Kouji stammt aus einer angesehenen Musikerfamilie. Schon sein Vater beschäftigte sich sehr intensiv mit der europäischen Musik, der Bruder ist heute Chefdirigent des NHK (Symphoniorchester Tokyo) einen der besten Orchester Japans.

Heute leitet Toyama Kouji an verschiedenen Musikuniversitäten Japans und ist selbst Absolvent der Tokyo Kunstuniversität, welche weltweit einen hervorragenden Ruf besitzt.



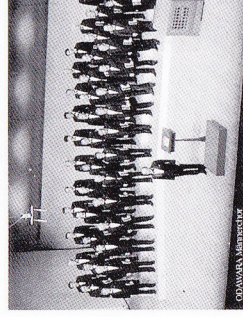
ODAWARA  
Männerchor

TOYAMA Kouji, Dirigent  
YOSHINOBU Ishii, Chorleiter

Der 50 Mitglieder starke Männerchor wurde am 2. November 1971 in Odawara in der Präfektur Kanagawa gegründet. Seit dem ersten Konzert im Mai 1972, kontinuierliche Konzerttätigkeit unter anderem hat die Chorgruppe bereits im Jahre 1973 den 3. Preis beim japanischen Chorwettbewerb errungen. Mitwirkung bei der Fujiwara-Bürger-Oper und bei der traditionellen 9. Symphonie Beethovens.

Seit 1975 Mitglied der JMCA (Japan Association of Men's Chorus) dessen Vorstand der Dirigent des Chores, TOYAMA Kouji, ist. 1985 Gründung der KAMCA (Kanagawa Men's Chorus Association)

Die Präfektur Kanagawa grenzt an die japanische Hauptstadt Tokyo, wobei die Präfekturhauptstadt Yokohama die zweitgrößte Stadt Japans ist und sich im Laufe der Zeit zum Ballungsgebiet Tokyos entwickelt hat. Auf der westlichen Seite der Tokyoter Bucht gelegen besitzt Yokohama einen der besten Handballplätze Japans.



ODAWARA Männerchor

平成18年(2006年)の活動

年.月.日	曜日	演奏会等	会場	指揮	曲目
2006.1.6	金	ウィーン演奏会	ウィーンツェルハウス	外山	月光とピロ 日本民謡 他
2.11	土	平成17年度 総会	旭丘高校音楽室	牛丸	
6.4	日	第55回 湘南合唱祭	茅ヶ崎市民会館	牛丸	石橋の町より
7.28	金	プル城下町サミット演奏会	ヒルトン小田原 リゾート&スパ	牛丸	箱根里 からたちの花 最上川舟歌 他
9.16	土	強化練習 1/3 (2ヶ月前合宿)	いこいの村あしがら	外山 牛丸	全曲
9.17	日	強化練習 2/3 (2ヶ月前合宿)	いこいの村あしがら	牛丸	全曲
9.30	土	サンシティ横浜演奏会	サンシティ横浜ホール	牛丸	箱根里 からたちの花 日本民謡 シューベルト
10.7	土	第17回 日本男声合唱協会JAMCA大分合宿練習	総合文化Ciiichico大分ラウンジアター	外山	互寒小景 柳河風俗詩 最上川舟歌 他
10.8	日	第17回 日本男声合唱協会JAMCA大分演奏会	総合文化Ciiichico大分ラウンジアター	外山	互寒小景 柳河風俗詩 最上川舟歌 他
10.15	日	第40回 小田原市民合唱祭	小田原市民会館 大H	牛丸	柳河風俗詩より柳河 からたちの花
11.5	日	強化練習 3/3 (2週間前)	旭丘高校音楽室	外山 牛丸	全曲
11.14	火	ゲネプロ 1	小田原市民会館 小H	牛丸	全曲
11.17	金	ゲネプロ 2	小田原市民会館 大H	外山 牛丸	全曲
11.18	土	第35回 記念定期演奏会	小田原市民会館 大H	外山 牛丸	全曲
12.26	火	18年 納会	旭丘高校音楽室	外山 牛丸	
2007.1.9	火	19年 歌い始め	(2/10総会)	牛丸	
3.25	日	小田原 第九	小田原市民会館 大H	小林研一郎	
4.14	土	第7回 神奈川県合唱協会KAMCA 競合	川崎市教育文化会館		シューベルト 合同曲 水のいのち
6.3	日	第56回 湘南合唱祭	厚木市文化会館		
10.14	日	第41回 小田原市民合唱祭	小田原市民会館 大H		
12.8	土	第36回 定期演奏会	小田原市民会館 大H	外山 牛丸	尾崎喜川の詩から ふるさとの四季 他

◆ 日本男声合唱協会 第17回演奏会 in 大分 JAMCA in OITA (JAMCA創立35周年記念演奏会)  
2006.10.7~9日の3連休 演奏会8日(日)

小田男ステージ 互寒小景 北原白秋作詩 多田武彦作曲 委嘱初演 指揮 外山浩爾 先生

全国合同演奏曲 I 柳河風俗詩 北原白秋作詩 多田武彦作曲  
1 柳河 2 紺屋のおろく 3 かきつばた 4 梅雨の晴れ間

全国合同演奏曲 II 1 斎太郎節 2 組曲より・雨(多田武彦) 3 最上川舟唄  
4 川の流れのように 5 遙かな友に

◆ 今後の男声合唱協会関係

◇ 第18回 日本男声合唱協会 JAMCA 弘前演奏会 2007年. 07. 14~16の3連休・競合15日(有参加)  
◇ 第7回 神奈川県声合唱協会 KAMCA 川崎演奏会 2007年  
◇ 第19回 日本男声合唱協会 JAMCA 滋賀演奏会 2008年  
◇ 第8回 神奈川県声合唱協会 KAMCA 県央演奏会 2009年  
◇ 第20回 日本男声合唱協会 JAMCA 小田原開催 2010年(予定)  
◇ 第9回 神奈川県声合唱協会 KAMCA 小田原開催 2011年(予定)

# 小田原男声合唱団1971 第35回 記念定期演奏会

T1

石山 (藤沢市) 誠  
井本 (秦野市) 博也  
伊藤 (横浜市) 正昭  
加藤 (秦野市) 重喜  
佐野 (岡山陽町) 惠  
諏訪部 (中井町) 清  
長瀬 (松田町) 友英  
西山 (二宮町) 廣木代  
福嶋 (小田原市) 修  
日置 (小田原市) 達男  
堀内 (小田原市) 哲夫  
松田 (山北町) 直隆

T2

青野 (秦野市) 幸夫  
伊藤 (松田町) 甲一  
牛丸 (小田原市) 紘一  
佐藤 (二宮町) 精孝  
杉原 (南足柄市) 由一  
杉本 (南足柄市) 健二  
福井 (二宮町) 隆  
宝子 (小田原市) 山尚生  
奎中 (秦野市) 勉  
山田 (茅ヶ崎市) 允彦  
山田 (小田原市) 資就

B1

青野 (小田原市) 正純  
熱田 (南足柄市) 隆純  
伊東 (秦野市) 清邦  
井上 (小田原市) 忠彦  
岩田 (熱海市) 一男  
江川 (鎌倉市) 卓夫  
江藤 (厚木市) 凱夫  
岡部仁之助 (秦野市) 仁之助  
奥津 (小田原市) 光隆  
小澤 (小田原市) 一  
菊池 (小田原市) 義彦  
下村 (小田原市) 興毅  
西山 (秦野市) 隆行  
山本 (南足柄市) 信雄  
見尾田 (小田原市) 博樹  
湯川 (小田原市) 裕光

B2

赤川 (伊勢原市) 軍一  
一色 (秦野市) 義信  
日下部 (平塚市) 陽  
桑原 (大井町) 敏雄  
古林 (二宮町) 源次郎  
近藤 (大磯町) 陽一郎  
坂口 (小田原市) 宗夫  
島田 (南足柄市) 忠彦  
下澤 (小田原市) 孝  
鈴木 (南足柄市) 壽久  
田島 (南足柄市) 達也  
辻岡 (開成町) 伸浩  
豊田 (小田原市) 增穂  
星野 (茅ヶ崎市) 正博

音楽監督

常任指揮者

外山 浩爾

団内指揮者

牛丸 紘一

技術部長

福井 隆

パ-トリ-ダ-

T1 日置 達男

T2 牛丸 紘一

B1 小澤 一

B2 豊田 增穂

団員副部長

T1 石山 誠

T2 山田 允彦

B1 伊東 清邦

B2 鈴木 壽久

運営スタッフ

団長 一色 義信

副団長 福井 隆

事務局長 桑原 敏雄

技術部長 福井 隆

財政部長 佐藤 精孝

団員部長 伊東 清邦

情報部長 加藤 重喜

渉外部長 杉本 健二

事業部長 青野 幸夫

会計監査

田島 達也

西山 廣木代

第35回定期演奏会スタッフ

委員長 青野 幸夫

事務局 桑原 敏雄

計 佐藤 精孝

会 宝子 山尚生

演 鈴木 壽久

出 福井 隆

報 桑原 敏雄

外 杉本 健二

渉 伊東 清邦

プロ 青野 幸夫

招待 豊田 增穂

舞 齋藤 惠司

記 日置 達男

録 福井 隆

打上げ

## アポロピア

東洋ピアノ製造株式会社

スタインウェイ&サンズ 新品 中古  
ペーゼンドルファー 新品 中古



### 井上楽器

小田原お堀端通り

TEL 24-0515

箱根観光のお問い合わせは“和と感謝の”

## (財) 箱根町観光協会

総合観光案内所 TEL 0460 (5) 5700

URL <http://www.hakone.or.jp>

作家で小田男団員の

みおた ひろ 氏  
こだわりのお店です。

北海道料理  
昼の食事会

家庭料理 魚料理  
小宴会にもどうぞ

TEL&FAX 0465-22-7668

旬の味 くつろぎ処

見尾田 博樹(格)

おしやれ横町 ホテルとざん前

北海道料理  
昼の食事会

定休日：火曜日  
第1・3  
月曜日

17:00~23:00(土曜4:30~)

## 『四季彩菜』

いっしょに歌いましょう 年齢経験不問

お待ちしております

## 小田原男声合唱団 団員募集

練習日 毎週火曜日 19:00~21:30  
第4日曜日 10:00~17:00  
練習会場 旭丘高等学校 (小田原駅徒歩5分)

平成18年度、新入団員再入団員7名を迎えました。  
連絡先・事務局 井上楽器 0465-24-0515